

日本図書館文化史研究会
2010 年度研究集会・会員総会のご案内

2010 年度日本図書館文化史研究会研究集会・会員総会を、下記のように開催することになりました。多くの方の参加を期待します。

記

- 日 程： 2010 年 9 月 11 日（土）・12 日（日）
- 会 場： 実践女子大学本館 4 階 442 教室
東京都日野市大坂上 4-1-1
<http://www.jissen.ac.jp/jpn/top/04/index.php>
※ 5 ページに会場案内図を掲載しました。
- 交 通： JR 中央線日野駅下車、徒歩約 12 分
<http://www.jissen.ac.jp/sonoma/a01/a01a01a02>
- 参加費： 2,000 円 懇親会参加費： 6,000 円
- 申込方法： 次の事項を明記して、下記申込先まで、はがき、ファックス、または電子メールにてお申し込みください。
氏名（ふりがな）
所属
懇親会参加の有無
オプションツアー A・B 参加の有無
- 申 込 先： 〒321-3295 宇都宮市竹下町 908
作新学院大学 司書・司書教諭課程 小黒 浩司
電子メール：oguro@sakushin-u.ac.jp
ファックス：028-670-3671
- 申込締切： 9 月 5 日（必着） でお願ひします。
- プログラム
第 1 日：9 月 11 日（土）
10:30-11:30 オプションツアー A 日野市立中央図書館見学会
※ 詳細は 6 ページをご覧ください。
12:00- 受付開始
12:30-13:30 会員総会
13:40-17:00 シンポジウム「『市民の図書館』40 年」
13:40-13:50 開会挨拶
13:50-14:20 シンポジウムの趣旨 奥泉 和久（横浜女子短期大学図書館）
14:25-15:05 報 告① 森下 芳則（前田原市図書館）
15:10-15:50 報 告② 山口源治郎（東京学芸大学）
16:00-17:00 全体討論
17:30-19:30 懇親会（参加費： 6,000 円）
浜寿司 本店（日野市多摩平 5-9-8 TEL：042-581-2259）

第2日：9月12日（日）

- 10:00-10:55 個人発表① 「市民の図書館」を实践する：日野宿発見隊の活動
渡辺 生子（日野市立日野図書館分館長）
- 10:55-11:50 個人発表② 第二次大戦中の中国における日本軍接收図書の研究
鞆谷 純一（大阪市立大学大学院創造都市研究科）
- 12:30-12:55 オプショナルツアーB 実践女子大学図書館見学会
※ 詳細は5～6ページをご覧ください。
- 13:10-14:05 個人発表③ 伊東平蔵と東京市立図書館の設立
吉田 昭子（東京都立中央図書館）
- 14:05-15:00 個人発表④ 『佐野友三郎訳 デイクソン英文典直訳 攻玉社蔵版』共益
商社書店、明治二十年」考
小川 徹
- 15:00-16:00 運営委員会

※ 11・12日は、学内の食堂は休業です。大学、もしくは日野駅近辺のレストラン、コンビニ等をご利用ください。

※ 宿泊は、各自でご手配ください。立川駅、八王子駅周辺に宿泊施設があります。

シンポジウム・個人発表要旨

11日

シンポジウム

- テーマ：『市民の図書館』40年
- 報告者：森下 芳則（前田原市図書館）
山口源治郎（東京学芸大学）
- 司会：奥泉 和久（横浜女子短期大学図書館）
- シンポジウムの趣旨（奥泉和久）

『市民の図書館』（日本図書館協会、1970）が刊行されてから、今年で40年になります。

『中小都市における公共図書館の運営』（中小レポート）（日本図書館協会、1963）の実現をめざして日野市立図書館がスタートし、日野の実践したサービスを全国に普及させるべく『市民の図書館』がつくられたことはよく知られているところです。その日野市にキャンパスを構える実践女子大学で本年の研究集会、併せて「『市民の図書館』40年」とのテーマでシンポジウムが行われることになりました。

『市民の図書館』は、1970年代以降の公共図書館のあるべき姿を描き、これまで図書館界では絶大な支持を得てきました。同書について多くの実践が報告され、図書館サービスや図書館史のテキストなどにも必ずといってよいほど概説がなされ、そこでは戦後の図書館の歩むべき道筋を主導したとの評価が定着しているといえると思います。

ところが、1990年代以降の新自由主義的な政策にもとづく図書館法改正、民営化の推進などの動きのなかで、それまでの『市民の図書館』観の転換を促すサービス論が展開されました。これらには図書館をとりまく情報環境の急激な変化も背景にあり、現在の図書館

サービスを再検討する必要から提起されたとの見方もできるようです。これに対し反論もなされたのですが、『市民の図書館』の歴史的な意義をめぐる論議はかみ合わず、未消化のまま現在に至っているように思われます。それだけに歴史研究として『市民の図書館』をとりあげようとするときの課題でもあるといえるでしょう。

そこで森下芳則氏（前田原市図書館）には、日野市立図書館で実際にサービスを実践された体験に基づいて、同館の果たした役割などを中心に、ご自身による検証を期待しています。また、その後田原市図書館長として新しい図書館づくり、図書館経営にかかわったお立場から、現在『市民の図書館』をどのようにとらえているのかについてもお考えを聞かせていただきたいと思います。

山口源治郎氏（東京学芸大学）は、上に述べたような『市民の図書館』をめぐる論議に関して、これまでも発言されています。それらを含め、あらためて現時点において『市民の図書館』を歴史研究の対象とするための論点整理をお願いし、さらには本格的な『市民の図書館』研究のための視座をいかにして形成したらよいかなどについて検討していただきたいと思います。

報告者、参加者による活発な議論を期待しています。

報告① 14:25-15:05

森下 芳則

○ 報告題名

コロンブスの卵とアルキメデスの支点

○ 報告要旨

70年代、日本の公共図書館にイノベーションがあった。理念が共有され、技術や条件が整った。『市民の図書館』には停滞する図書館状況を突破しようとする強い意志と危機感があった。

図書館員として仕事をしていく上で大事なことは二つ。図書館は社会の中でどのような役割を果たすのか、何のために図書館はあるのかということを理解すること。もう一つは、顧客、利用者は、図書館に何を求めているのかを探り、それに応えること。普遍的で、どのような仕事にも共通する初心。私は図書館の現場と『市民の図書館』から学んだ。

報告② 15:10-15:50

山口 源治郎

○ 報告題名

『市民の図書館』と公共図書館の戦後体制

○ 報告要旨

『市民の図書館』が刊行され40年が経過した。それは今日においても強い規範性を保っているとともに、論争的な存在であり続けている。『市民の図書館』は1970年代初頭に成立した公共図書館の「戦後体制」の重要な要素として存在した。そこに強い規範性の根拠がある。同時に今日、「戦後社会」の転換に直面し公共図書館のあり方が問われている。本報告ではそうした事柄を踏まえ、『市民の図書館』成立の背景、その構造的特徴、歴史的・社会的意義を、公共図書館の「戦後体制」という視角から分析したい。

12日

個人発表

発表① 10:00-10:55

渡辺 生子（日野市立日野図書館分館長）

○ 発表題名

「市民の図書館」を実践する：日野宿発見隊の活動

○ 発表要旨

日野市立図書館の分館、日野図書館では図書館職員がまちへ飛び出し、住民と共にまちのお宝や古い写真などを発見する活動をしています。図書館の活動がまちおこしにもつながり、まちを変えていく。住民に役にたつ図書館めざして、住民とともに作っている活動、有山氏がめざした「市民の図書館」をまさにその地元から発信します。

発表② 10:55-11:50

鞆谷 純一（大阪市立大学大学院創造都市研究科）

○ 発表題名

第二次大戦中の中国における日本軍接收図書の研究

○ 発表要旨

第二次大戦中の日本軍は、中国において多くの図書を接收していた。接收した図書の種類は、抗日文献、政府刊行物、古典籍など様々である。接收図書の用途も、一様ではなく、占領地で研究用として活用されたり、製紙処理されたりしている。そして接收図書の一部は、東京帝国大学附属図書館や帝国図書館といった我が国を代表する図書館に搬入されていた。

今回の発表では、論者がこれまで重ねてきた研究をまとめ、中国における日本軍接收図書について、その全体像を素描し、併せて論者の見解を表したいと思う。

発表③ 13:10-14:05

吉田 昭子（東京都立中央図書館）

○ 発表題名

伊東平蔵と東京市立図書館の設立

○ 発表要旨

伊東平蔵（1856-1929）は、東京外国語学校教授をつとめ、私立大橋図書館、宮城県立図書館、私立佐賀図書館、横浜市図書館等で設立準備や運営にあたった。日本で初めての図書館講習会の開催を推進するなど、図書館分野で多くの業績を残している。

伊東は明治30年代から始まる東京市立図書館設立準備においても、重要な役割を果たした。東京市立日比谷図書館設立準備段階で、伊東がどのように関わったのか、それが東京市立図書館の設立に与えた影響を検証してみたい。

発表④ 14:05-15:00

小川 徹

○ 発表題名

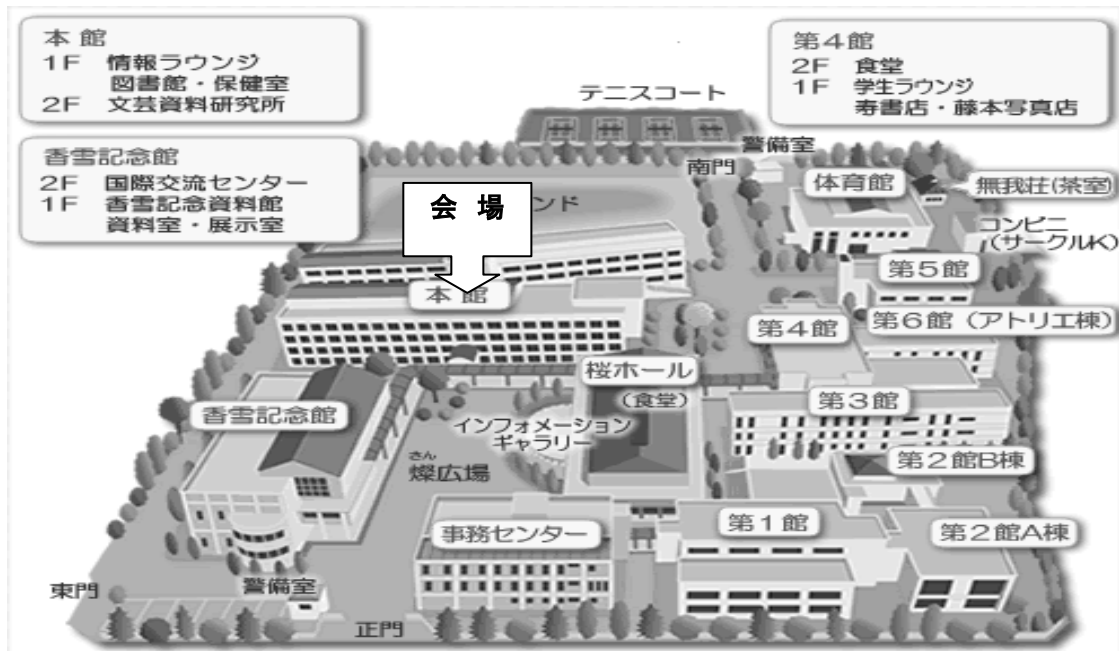
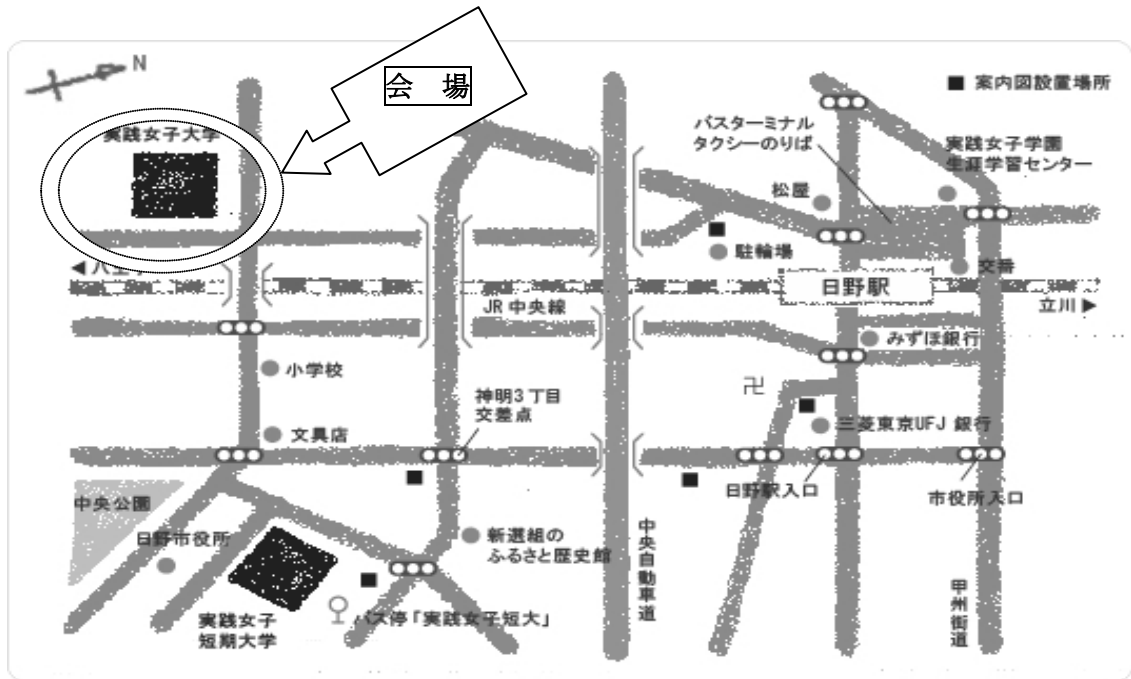
『佐野友三郎訳 デイクソン英文典直訳 攻玉社蔵版』共益商社書店、明治二十年」考

○ 発表要旨

佐野友三郎は、明治30年代から大正期にかけて、秋田・山口の県立図書館長として日本図書館史上名を残していますが、帝国大学文科大学和文学科学生のと、英語・英文学担当の James Main Dixon 教授がテキストとして出版した“English lessons for Japanese students”を翻訳しています。このことはこれまで紹介されることがなかったと思うので、まだ分らないところがありますが、若き日の佐野の一面を物語るものとして報告をします。

会場案内

※ 会場は、実践女子短期大学ではなく、実践女子大学です。ご注意ください。



2010 年度研究集会オプショナルツアーのご案内

2010 年度研究集会の開催時に、以下の二つのオプショナルツアーを実施予定です。あわせてのご参加を期待します。

A 日野市立中央図書館見学会

1. 日 時： 9月11日（土） 10時30分～11時30分（1時間）
2. 集合場所： 日野市立中央図書館玄関前
日野市豊田 2-49 JR 中央線豊田駅南口下車徒歩 6 分
https://www.lib.city.hino.tokyo.jp/hnolib_doc200801/sisetu/tyuou.htm
3. 集合時間： 10時20分
4. 参加定員： 25名（先着順で受け付けます）
※ 見学会終了後は、タクシー相乗りで実践女子大学へ移動予定です。

B 実践女子大学図書館見学会

1. 日 時： 9月12日（日） 12時30分～12時55分（25分）
2. 集合場所： 実践女子大学本館 1階図書館前
<http://www.jissen.ac.jp/sonoma/a04a20a07/osakauemap/>
3. 集合時間： 12時25分
4. 参加定員： 25名（先着順で受け付けます）
※ 12時～13時までの間、自由見学も可能です。

